韓国 4	Bangahgolコミュニティ福祉センター

「道峰エコロジカルトランジション」：地域のレジリエンスで気候危機と気候不平等のサイクルに取り組む“実践のコミュニティ”（資源循環と食糧問題に焦点を当てる）

キーワード	持続可能性、循環性、関係、実践のコミュニティ、コモンズ
活動の目的・目標	1. 実践と参加によって得た知識を通してコモナーに成長する“実践のコミュニティ”を組織する。 2. 気候変動を原因とする不平等（気候不平等）により生活がさらに脆弱化する人々の生活に対処する地域の循環システムを確立することによって、その地域の福祉能力を強化する。 3. 道峰のエコロジカルトランジションのために、住民の気候変動対策をつなげる文化運動を活性化する。
活動の対象者	気候危機、気候不平等、エコロジカルトランジションに関心がある、あるいは進んで実践したいと考える住民
活動内容	**Ⅰ. 学習は生活につながり、地域の変革をもたらす** **[住民教育__エコロジカル市民村学校]** Bangahgolが追求する知識はコモンズとつながっている。コモンズの役割は、単に資源をどのように管理するかではなく、どのような生活を追求するかに焦点を当てなければならないことを示唆している。エコロジカル市民村学校は、「気候危機？私たちがすべきことは何か？」、「私がそれをすると、何が変わるのか？」、「危機だと言うが、本当の危機とは何なのか？」といった問いかけから始まった。当初は、一人で問いかけを行うことは難しかった。しかし、学習を通して自分たちの生活の中で実践したいと考えるエコロジカルな市民の集まり、すなわち学びの場が生まれることにつながった。2022年の第１回のエコロジカル市民村学校を通して、「道峰エコロジカル・トランジション・イニシアティブ」の名のもとに10人の活動家が組織された。道峰エコロジカル・トランジション・イニシアティブは、「私の住む地域から食の資源循環とエコロジカルトランジションの実践を広げる」というビジョンを確立し、キャンペーンや公開討論、フェスティバル、連帯を通して、その活動を継続している。2024年、道峰エコロジカル・トランジションの活動家が講師となって、過去の経験を教材として、第2回エコロジカル市民村学校を開いた。結果、15人が卒業し、そのうちの4人は現在、社会協同組合「道峰エコロジカル・トランジション・イニシアティブ」のメンバーであり、共に活動している。 **[次世代__環境配慮文化体験教育]** 「先生、道峰エコロジカル・トランジションのおかげで、私の息子がここのところ毎日プロギングをしています。ごみを拾わずに家に帰れないと言っています」。道峰エコロジカル・トランジションは、気候危機と気候不平等に対処する主要なステークホルダーとして、次世代の子どもたちに重点を置いている。子どもたちが将来暮らす気候と社会が今より少しでも良くなることが、強い願いだからだ。子どもたちが、気候危機の時代に暮らしながら自分自身で行動を起こす能力を身に付けるには、現在を知り、自分のできることから始める勇気を持つことが必要だと私たちは考える。したがって、私たちは、資源循環と食をテーマに、劇や歌、経験、実践の約束を含む、文化コンテンツ教育（計画）を開発・運営している。

活動内容

【エコロジカル市民村学校、第1回】

【エコロジカル市民村学校、第2回】

【環境配慮文化体験教育】

II. ストーリー：新たな実践と可能性を開く場所

学習は、日常生活につなげることに関して重要な働きをする。道峰エコロジカルトランジションは、気候不平等の問題に対応して、エコロジカルトランジション戦略を探求するための学びの場所として、ストーリー（物語）フォーラムを開いた。物語は、持続可能性を創造するために人間が持つ強力な手段であると言われている。綿密な計画プロセスが目指したものは、できるだけ多くの人のストーリーを包含できるスペースを作ることだった。第一に、一度きりのイベントではなく、運営期間が1週間あるプログラムとして構成した。第二に、メインテーマの提示は、年間展示コンセプトを通して行った。第三に、1対1のおしゃべりから、小グループでの話し合い、大きな公開フォーラムまで、全員のストーリーを包含できるようにスペースが設計された。このようにして「気候不平等ストーリーウィーク2022」が始まった。私たちは近隣の住民に、高騰する食品価格を原因とする食糧危機について質問をした。結果、307人の住民が、今必要なのは「食品（廃棄物）を減らすこと」と回答した。そこで2023年には、話し合いのテーマを気候危機、食糧、食品廃棄物とした。食品の廃棄と飢餓が共存するという現実を受け入れたうえで、地域の食品循環システムが必要だという課題に到達した。その後、私たちは気候不平等に対応するために食のケアコミュニティを組織し、食品循環システムの代替手段として「私たちの近所のみんなの冷蔵庫」を計画した。これは誰でも食品を分けたり持ち帰ったりできるシステムで、現在3つの支部を運営している。気候危機の時代の食品価格という課題で始まったストーリーウィークは、食品廃棄の問題と地域の食品循環システムの必要性に対処するまでに発展した。このストーリーウィークを通して私たちが強調したいことは、気候不平等の時代に尊厳を持って生きるためには、近隣住民へのケアを日常のルーティーンにすることが不可欠であるという考えである。

活動内容

【気候不平等ストーリーウィーク2024】

【気候不平等ストーリーウィーク2024】

【気候不平等ストーリーウィーク2023】

III. 気候変動対策をつなげる文化運動

文化には、普遍的で一般的な共同体をひとつにまとめる力がある。地域の文化を尊重することは、地域独自のアイデンティティを尊重し、人間と環境の間の関係に基づく文化的多様性を尊重するということである。気候危機に対応することは、この時代に生きる人すべてが対策を取らなければならない“共有された責任”であることは明らかだ。そのため、道峰エコロジカルトランジションが実施している文化運動キャンペーンでは、絵本を読むこと、絵本を作成すること、プラカードの掲示、フラッシュモブ、リサイクルテープのボーリングゲームなど、様々な方法で参加を促している。さらに、気候変動対策の最後を飾るイベントである「道峰エコロジカルトランジションは当然ZE(ro)に到達する」と題したごみゼロフェスティバルでは、2022年には15リットル、2023年には10リットル、2024年には5リットルと、「ほぼごみゼロ」を達成するという目標を掲げている。使い捨て容器はライスパフでできており、使い捨ての横断幕は端切れを使って手縫いで作られ、段ボール箱を使ったユニークな横断幕など、ゼロ包装販売を推進しようと努力している。少し不便で面倒かもしれないが、ブースの運営者とフェスティバル参加者は、その不便を進んで受け入れている。時には難しいこともあるが、楽しいことでもある。そして私たちは、個人の行動が気候変動対策につながるというこのポジティブな経験が、それぞれの人生のターニングポイントになることを望んでいる。

韓国 4	Bangahgolコミュニティ福祉センター

活動内容

【地域でのキャンペーン：〇×クイズ】

【地域でのキャンペーン：
テープボーリングゲーム】

【道峰エコロジカルトランジションは
当然ZE(ro)（ゼロ）に到達する。
627.8 kgの炭素削減に成功】

活動の特徴

1. 知識と生活の変革を通して地域に変化を生む、エコロジカルシチズンシップを強化する。

２.「気候危機」という重い課題を共有し、楽しい実践を通してゆるやかで相互的な関係のネットワークを形成する、信頼に基づく“実践のコミュニティ”

３. 社会協同組合としての自律性を強化し、「自分が住む地域から」、「自分にできることから」「気候不平等に対応した」エコロジカルトランジション福祉コモンズを実現する。

参加者の声、感想

〇私は道峰区の気候危機がすぐに解決すると感じている。それは、こうした信じられないほど希望に満ちた人々と共に集まって、学び、楽しむことから得られるエネルギーが理由だ。いずれにせよ、私を励まし応援し続けてくれる道峰エコロジカルトランジションの活動家たちが私は大好きだ。（Daisy_*hee Hong）

〇私は何かに属することが好きではない。自分ひとりで実践したいと思っていた。しかし、エコロジカル市民村学校に出席しているうちに、少しずつ「一緒にやろう！一緒にする機会を持とう」と考えるようになってきた。特に、彼らがお互いに温かく支え合っている様子が好きだった。私にはまだあまり知識はないが、私ができることがあるかもしれないということを学んだと思う。（Wind_*sook Won）

韓国 4	Bangahgolコミュニティ福祉センター

参加者の声、感想

○「学んだことをただ考えるのではなく、行動しよう」ということを学んだ。気候危機にはとても興味があるが、「自分ひとりでできるだろうか？」とよく考えていた。しかし、エコロジカル市民村学校に出席しているうちに、私もうまくやれているのだと感じた。私はこれをすべきだと考え、着実に実践を試みていこうと思っている。
（ Nallari_*hyun Kwon）

○私は気弱なため、他人からの拒絶が怖くて躊躇することが多かった。しかし、積極的に情報を知らせ、行動する必要があると感じた。自分の個人的な考えに閉じこもるのではなく、住民と共に外に出ていける方向性で動くべきだと決心した。
（ Rainbow_*A Park）

○私はごく普通の生活を送ってるが、気候危機の一因にもなってしまっている。私はずいぶん反省している。1+1がどうこうではなく、近隣の人たちと共有し思いやりあう生活を送ろう。今日から始めよう。今日が第1日だ。
（ 気候不平等ストーリーウィークに参加した住民）

活動の特徴

Baek Yeong-gyeong (2017). ‘Commons and Welfare: A Current Issue for an Integrated Approach to the Social Reproduction Crisis’, <ECO (Vol. 21, No. 1)>. Korean Society for Environmental Sociology

団体・組織情報

【団体・組織名】Bangahgolコミュニティ福祉センター
【設立年】 1998年
【所在地】 42, Sirubong-ro 17-gil, Dobong-gu, Seoul, Korea
【運営ミッション】住民とともにある持続可能な地域コミュニティ、Bangahgol
【運営ビジョン】Bangahgolは、住民から始まり、住民から学ぶ「ワクワクするような福祉センター」になる
【URL】 https://www.bangahgol.or.kr/

担当者情報

【担当者名】 Kim Nanmi
【所属】 第3地域チーム
【E-mail】 nabi8203@bangahgol.or.kr
【電話番号】 02-6949-0650